

語林類葉

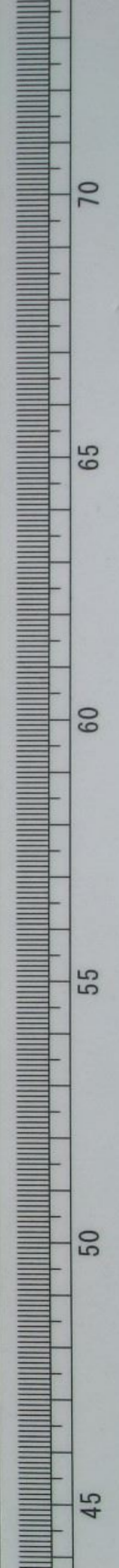
すせき

九

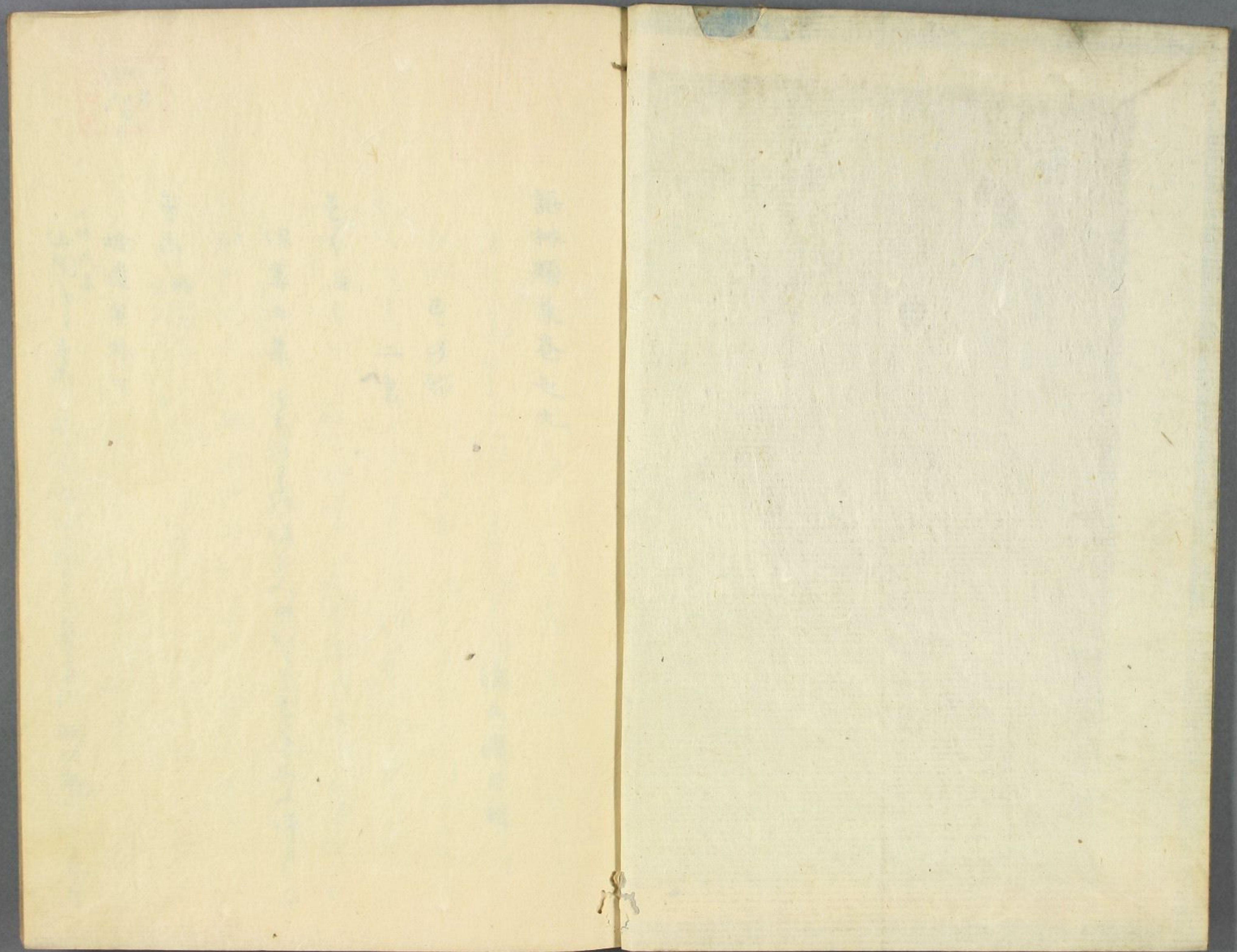


三

ホ 2  
502  
9









明水 加  
番 102  
巻 9



語林類彙卷之九

清久濱臣輯

たの部

二言

たの 流

保妻女集 うちよみはむらみりもさしあはしる。

たの 残子

拾遺負外下

小侍後集

山周 風



福田川ヲ云

袖中十二十二 教書云云  
夫木夫木 季経季経 此判者墨後云九分姿ハ

○夫木廿六渡 永久四年八月雲居寺哥合霧源経兼

此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ

此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ

スバカヨイススベクスルナト浴言ニイリ

袖中ニサカ 引綺語廿云  
引綺語廿云  
引綺語廿云  
引綺語廿云

浴ニ御未トイフニイリ

袂衣四中三 糸のり  
袂衣四中三 糸のり  
袂衣四中三 糸のり  
袂衣四中三 糸のり

此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ  
此判者墨後云九分姿ハ



にあつたつて移をりてをこすとす。○  
 ちて為居ことかほ一柱借何考一

三言

業の

拾遺雜秋 母巻

後拾遺秋上 長能

後拾遺秋上 長能  
 後拾遺秋上 長能  
 後拾遺秋上 長能  
 後拾遺秋上 長能

鹿ノトセリ 後世説十一

五代製 仲実

あけをりてさき中をのあちふかか

同秋下 斎声雷客 仲実

おれいさきさきにたにさきあふりて

月詠九月 章保

おふゆきさきさきにたにさきあふりて

余抜引

さかきさきさきにたにさきあふりて

永久四年百三 巻三

さかきさきさきにたにさきあふりて

栗は世

源サ女 ちのさきさきにたにさきあふりて

さきさきにたにさきあふりて

さきさきにたにさきあふりて

六位  
受領  
〜  
〜



~~~~~

芳花浄着裳

うら川のまことにきこゆらうらうらなをまかせ給ふ

玉粟尺教 法成寺入道右衛門大政大臣

五代尺教 法橋頭昭

~~~~~

新六冬月 信実

は拓のふきききあまのまじりにあはれとてかきか

○ 芳花 音楽 その見物聞望の人あはれきくみりら

~~~~~ あほえに ○ 保 印マウの後下

~~~~~

さげ。○ 緒マウー

六帖

古今雜上

このつをききき人のあはれきこひをさしおとせし

○ 保 妻女集詞 ちをさげきききして○

~~~~~

源 彩 彩 いさげに色づつき ○ 細 老者の齒のち

てはのあつみききききき ○ 坊 鏡 序 きけきききき

~~~~~



さあ

後拾帖上 卷五

新圃虫 母老

吹笛の音にきいてその程を色々にいひていそいそと

新古雑上

林葉二古今草花

拾遺外

拾遺外

さあきりひくふと野を多めれをくみましてて

○源 瑛 彦彦 君達外とていへて

○ 源 瑛 彦彦 君達外とていへて

さあ 既

夫木世六 百家

月をもいひていそいそと

○

さあ 道〇スグナホノ畧カ

長明無名抄をくもいそいそと 〇源 若菜 下

さあいそいそと

堀石 仲美


さあに足一人をいそいそと

さあ




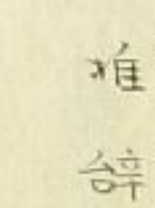
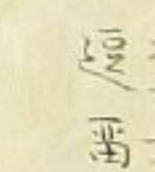
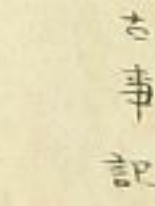
宇都保 印本末の段下

○源 空塚

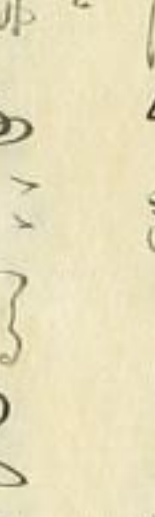
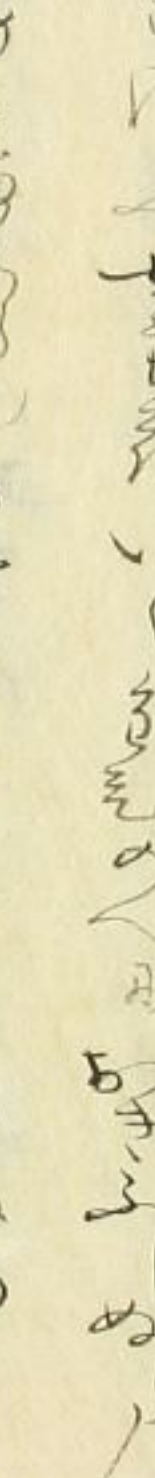
○源 蓬生  ○きぬむね上

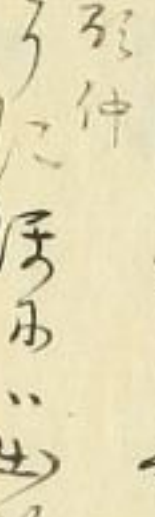
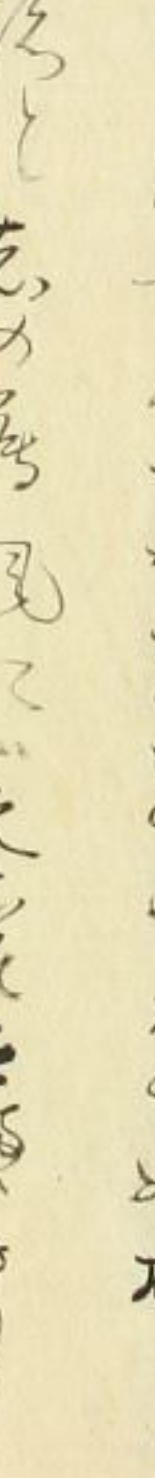
○きぬむね  ○増鏡 新治古 中院いあ

○しるか  疾

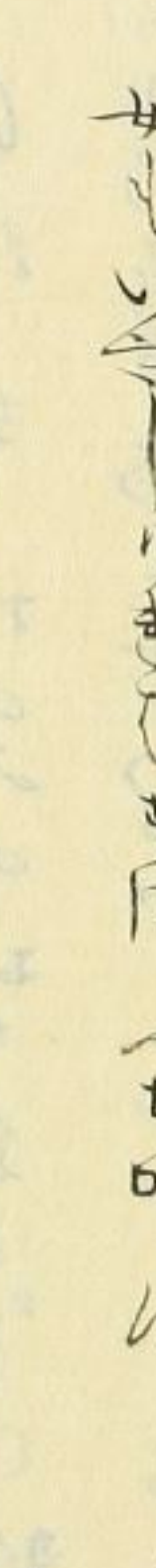
○  拒。辞退。イヤカレ。准辞。道正。○  雷。○  雷。○  事記


伊物  ○  事


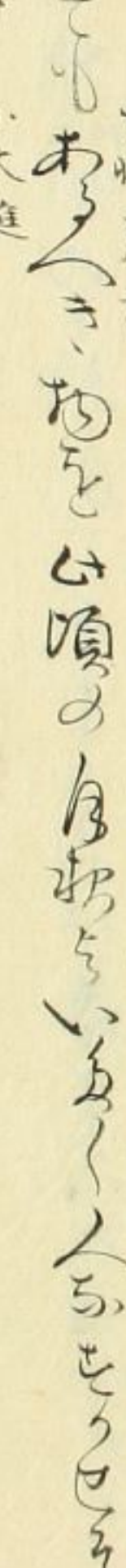
後拾杖上  ○  事


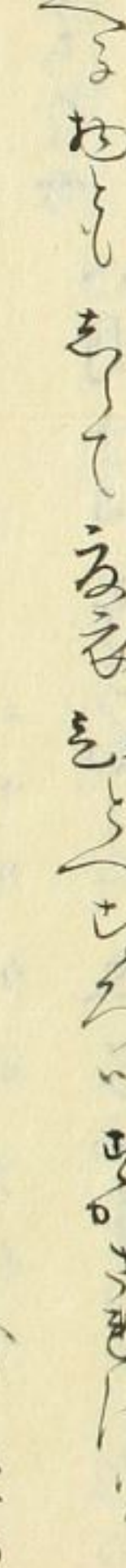
同簿  ○  事

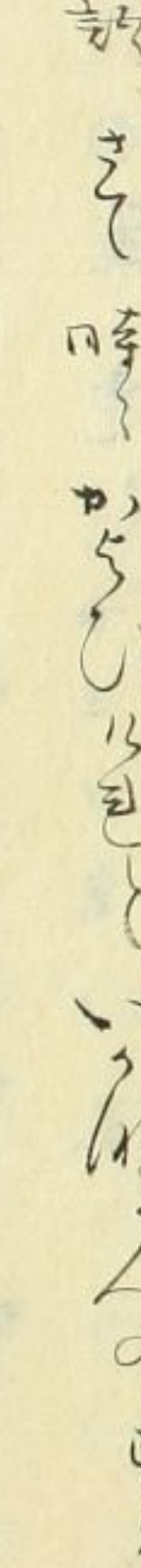
○枕冊子 四十三  事

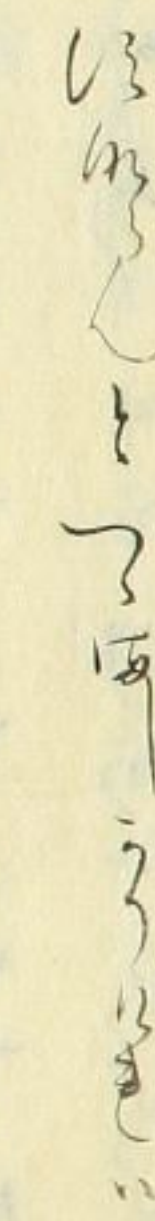
○伊物 四十一  事

さく  賺

後拾遺  後拾遺 抄將義考  事

続詞苑  続詞苑 戲笑 小大進  事

○大和物語  事

 事



おいらの せいふく

袂衣一上一五十いとまのうらぬりきめて○源 栂木

おいらのしきけあつたあてまのうらぬりきめて

ちりほした○盃 速サミノ宮ノ急ニアマ

増鏡 ちり雪 八月十日まのうらた太子ぬ色ちひぬ○

松のみ 秋実

中務日記 三川 松のみあちあちを○新古  
今意一をくぬのまきおをみつみてあてて  
実方 朝臣

おいらのしきけあつたあてまのうらぬりきめて

○

おいらのしきけあつたあてまのうらぬりきめて

落くほ四廿七おいらのしきけあつたあてまのうらぬりきめて

はしきけあつたあてまのうらぬりきめて

おいらのしきけあつたあてまのうらぬりきめて

万葉

○和名抄

イ子ハ  
うマ



拾遺雜記

世捨人

雅經集雙六

十あ

○東鑑世五<sup>世一</sup> 雙六者於持者可被許之至下藏

者永可令停止之。今昔廿六<sup>世三</sup> 双六ハ本ヨリ

論戰ヒヲ以テ宗トスル事トスル此等纂論ヲ  
之ケル間ニ

世捨人

世捨人

高野日記

世捨人

同  
うさば

世捨人

林葉三

月うけのうけくらまを

同 隣家萩

こめあき森のこめあき

○平家物語八車に

あきせき時

はきよはきよ

あきせき

世捨人



和名世

○延喜式

○東鑑十建久元年十月十三日賴朝於遠江國  
菊河仇々木三郎盛綱相副小刀於鞋楚割居折  
以子息小童送進御省云々彼折敷被涂御自笔  
曰

○ 侍之色も人の情も是を命の弓矢と云ふべし

○ くらき

皇日あをいひくけり百葉にもとと人考す

新古雜上 八条太政大臣

くらきめあまき 後にかきても ねんあめくも

○

くらき

長づき又長づき

源 復ナ

くらきかめ 伝四郎をりて 寄つてくらき

づきぬし 又あつ ○ 鈴虫 くのきもる 二統のくらきも

くらきめくは かにくらき

くらき

古今雜上 志峯

くらきあはれ くらきあはれ くらきあはれ

伊物

くらきあはれ くらきあはれ くらきあはれ



○和名塚津国郡名住吉復之三○

寸法

延喜式

○中務日記き女の寸法

とるまうしあきしんたのり

白氏文集

無得

小嶋口号

十二月の夜 十二月の初 十二月の暮水 老女

五言

枕冊子

十二月の夜

假粧

勅使被打囚競馬

昆崙八仙画舞

源初子

同菜若

+



朝衣  
さきほき多免しに  
さきりん人あふのあき  
さして○

さのろ

山家下さきり院信か  
さきり院信か  
さきり院信か

○  
さきり院信か  
さきり院信か

さのろ

康畱記宝徳元年十二月廿日参給事中文亭煤  
拂也○中御門宣胤卿記文明十二年十二月九  
日今日禁裏御煤拂○東鑑世一十六嘉禎二年  
十二月六日己丑霽為大膳権太夫奉行召陰陽  
師等於御所歲末年始雜事日收勅之御煤拂  
事有相論文元朝臣甲云新造者三箇年之内可  
有共憚云云親職晴賢等朝臣之先達者雖無指  
文皆所記置也至新造者無煤之故歟有煤者可  
拂歟云云所詮此條無證必然者無煤拂御汝汰  
可宣歟之由被出之間各不申子細也○



とく免あは

袖中五十一

赤染集

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

返一 大系女将

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

赤染集一巻の巻頭には、

○







あはれきこゝ今昔廿八ニ大路ヲ澄ミテ安  
ヨリ可行キ也ト定メテ人澄テ後○溪松三々  
くまのえいとうくまのえいとうて○源野分  
くまのえいとうくまのえいとうて○源野分  
くまのえいとうくまのえいとうて○源野分

をんかこゝして 巡○順

源 松風 あはれきこゝ今昔廿八ニ大路ヲ澄ミテ安

十言

あはれきこゝの神

続詞苑雜上 亥方

あはれきこゝの神

○

あはれきこゝの神 篁戸竹垣

五葉

壬二集

あはれきこゝの神

新六

散木秋

あはれきこゝの神

あはれきこゝの神 宜腹台



茶花 卷上 廿一

八言

七言 万八十四

春山之雨乃辛為墨尔春菜採妹之白紵見四方

四門 此二句契冲カ説モ誤也本居氏ノ辛烏里

出夕 入マカレトセラシヨ山ノサシ

曾丹集 百二司也

後拾春上 権傍正頼円

堀百若菜 基後

風雅春上

○袖中廿五の雨花をさしころ○丈夫きつり

のぼくろ○拾玉三三 ちんちん

堀百春駒 仲実 小竹を系とくろにさくろ多々あし

○新六 春野 ちんちんを洗し

十一言

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん日記 ちんちんちんちん

よるちんちん



十四言

移のあに論をさうしけき

中務日記

せの部

一言

せえの弟

万二長皇子と皇弟御哥

再生のういせいさうきん

コレハ女ヨリイフニアラステマシタマヘリ女子ヨリ  
弟皇子ヲサシテセトヨマセタマヘリ女子ヨリ  
ノ上ノ親敬○万十七衰傷長逝之弟哥  
ノ意成ベシ

余鬼奈芽乃美許等○

アト訓

二言

せく 蒨供



宇部保 五月廿日に修て

○

せら 切 ○ 節ヲイヒカキニシテ

○ 竹取

○

せら 切

伊勢物語 十月 節に

けと 芥門 拾玉四

銭

伊勢集

○ 宇部保 巻四 かくてまきまき 一多 秘み ちう 秘の かに  
一 つとつみ まきまき 一に 白う 秘め 浅 一 つとつみ こと  
み ○



三言

せうと 見人のおきにるあ

落くほ四廿二  
 かし 〇源 爰  
 〇同 廿女  
 〇 〇

わらハ 弟ノ 童ハ  
 井習ニ 對シテ  
 コレハ 五  
 第ハ 弟也

おらり

狭衣 一下 三四十 硯を舟のせうらあさう出て 〇同 三上  
 三 + 沖のさあせうらあ人のさえけりーいん 〇船用  
 集云物茂卿曰水主ノ居知ラセカイト云セク

イヤクヲト云ハニ階ノ下也舟ノ左右ノ脇落  
 間ノ処セカイト云ヤクヲノ出シ塚ノ下則セ  
 カイ也軍船ハセカイノ上ニ載アセリヲ明ル  
 ト云是ハ上ノ檣ノ出シ塚ニ弓ノ上箭ツカハ  
 テ不射故箭ノ入ルホトツカハ尤ヲ明ルセカシ  
 ハ左右ノ板塚ヲセカイト云口カイヲ押所也  
 〇花鳥 玉ノ鳥 早船ハ艦を多ク多クを云 船の両方  
 のせうらに八てし十てしむものさあかくをせし  
 〇盛衰記新中約言知盛舟ノセカ  
 イヨリ馬ヲ放チ玉フ鞆ノ六郎ハセカイニ  
 六



後京極

テ舟ノ下知ヲナスト見ユニ四十〇同世八船ニ  
ハ馬立一キ所ナカリケレハ舟ノセカイヨリ  
馬ノ頭ヲ碇へ引高テ〇藻塩草セカイナトナ  
キ舟ト注セルハ上棚ノ下ト心得タルアヤマ  
リ也舟ノ臺間<sup>ニ</sup>左右ノ惣名トシルヘシ  
船中<sup>ニ</sup>窓口のうけのきりきりせいのきりきり<sup>なり</sup>  
〇船法規矩云舟ノ肩ニ背ノ中ヲ増減シテ柁  
ノ長ヲ定ムル法アリ近頃ロカイト称ス檣<sup>程</sup>  
ヲアツカフ所故也今セカイトイヘハ不知モ  
ノアリ古ハセカイトイヘリトイヘリ今北國

西國ニテハセカイト云〇船用集云カノ字濁  
ベシ船ノ両方ノ物名也〇宇部保兼富<sup>あにちか</sup>  
<sup>おん</sup>み<sup>と</sup>に<sup>待</sup>源<sup>り</sup>事<sup>お</sup>ぬ<sup>く</sup>の<sup>せ</sup>う<sup>い</sup>に<sup>み</sup>り  
こ<sup>う</sup>く<sup>に</sup>お<sup>き</sup>さ<sup>え</sup>ぬ<sup>く</sup>の<sup>せ</sup>う<sup>い</sup>に<sup>み</sup>り〇

せう

盃裏記三八キ取足取セ、リ倒メ〇今昔廿七  
一四ノ続松ノ火ヲ以テモモヤリセ、ルノ焼テ  
〇同廿九廿七母カ幼キ子ヲセ、ラカス様ニ  
我子ノト云テ〇



世多々 瀬絶

捨道要草上

○ 世多々一して二麻の...川...  
○

世多々

夫木世六

後九条内大臣

林葉

あまき...の...に...  
○ 落窪一下 帯刀に世絶...  
○ 今昔廿

六三 事ニ事ヲ付テ責々メニトミテ○宇治拾

遺三十七 うち世々... ○ 盛衰記五考末ニ

懸テ打セタメ○同廿三我ハ入道ニセタメ殺

サレニスルワ○

世ち々 節忌 妙壽寺本

土佐日記

世ちこの 荷

兼光殿上光見

...の...の山と...  
○

林葉一

...野...に...  
○







大系ニハシテハ書ノ終ニシテハ  
拾玉ニ炭竈

る  
万代雜ニ大系ノ世ニハ  
夫木 在ノ編

二条大藏集 遠村致き火

明日香井集

○

○

○

○

世

新猿樂記用板之様躰

新六 忍草

夫木廿八 忍草 同

○

○

○

○

○

○



頭補集

野徑眺望

夫木世六

永久四年百々々

復號

仲実

夫木世六

同 知家

現存六

新六 為家

夫木世六

何ほしをりあさふし野徑眺望

夏美めきりり仲実

同 知家

新六 為家

夫木世六

せきやう

故障

雅亮装束云三方ニミスヲカケテオロシタ

ルウヘニゼンミヤウトテマンノヤウナルキ

ヌニ高松ヲホニタイニテ四季ノ木トモヲ書

タリニ幅ノ一ハリアルカ廣キヘリノキヒサ

キツナヲサシマハシタルヲニスノウヘニヒ

リナリ〇源 玉うづ

〇同 せきやう

せきやう



菅万下山河之浅杵満良杵裳○和訓栞可考○

和名杵 ○和名釋義瀨可考

林葉ニ 意何ぬ 谷のせらき ちみり。ちもし ちもし ちもし ちもし ちもし

○

拙者

甘露寺元長卿記

世もあゝ 無是非

業荒 楚王後 ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ

世もあゝ

嵯峨紀豊田麻呂善辯歌○堤中納言 ちもあゝ ちもあゝ

口みちるにみちるの○枕冊子 ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ

色一○

五言

増鏡 園遠

十あぢの目 ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ

久明親王将 軍ニ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ ちもあゝ



こ玉ノ時也此  
蘭ハ足柄ニヤ

せきりくろ 背垂

宇部保

後系君

せきりくろ

せきりくろ

狭き幅を

長明無名世上方方を現るる

○

せんどろき

宣旨書

源 夕きりてせんどろき

宿木

せんどろき

記 きのしりきりきりきり

せんどろき

増鏡

あはら川

十七日龜山殿

中畧

道りては

なまきりせんどろきを亂成師成とて  
あてきりてきりう総の多記に  
きりてきりてきりて北國の信  
なまきりてきりてきりてきりて  
なまきりてきりてきりてきりて



Handwritten text in Arabic script, likely a list or entry.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten word or phrase in Arabic script.

拾遺雜記 漢子卷銅版

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten text in Arabic script, possibly a list or entry.

Handwritten word or phrase in Arabic script.



い時かに...  
多世ー〇司  
〇源  
〇

山家集上

雪に...  
〇

清女約言

古事談

五代雜六... 清女約言

新古今雜上之補

清女約言

多...

名流集

燒尾鎮荒

三代実録貞観八年正月廿三日可考。瑯琊代



醉

かきなりさるゝ 同平ッ守井ニ書カ

中誓日記子孫ノ心算ニ付テ書カ  
~~~~~カニ〇

カニ書カ

散本ハ  
宝物  
洪石集同

〇

かえほしきまゐ

山家下七十

九言

小五月の御幸

中誓日記五月九日ハ小五月の御幸ニ〇

十一言



山家下  
そのまゝ

○袖中  
そのまゝ

そのまゝ

一言

そのまゝ

小馬命婦集 そのまゝ 敵のまゝ ○ そのまゝ

袖中

○ま

そのまゝ  
伊物

二言

そのまゝ

渡 鈴 ま

そのまゝ



そふ 其所。人たむらしてん

長明無名抄上巻の... 長代に...

○金葉雜上巻成助に... 遂て... 土器...

○ 少後。み... 川の... 底のん...

そふ 果

淡松四... 果... 果...

ソロキヨウ

果... 果...

夫木... 為... 君... 葉の...

果... 柳... 詞... 殺...

源... 同... 明石...

け... 同... 宿本...

... 菅方上... 惜殺... 空穂... 國譲...

... 菅方下... 同... 後系君...

... 菅方下... 咲殺... 保... 神... 杖... た... の...

イヒワシ  
コノミワシ  
サシエツサス  
セメワセヨ  
ヒツコヒツ  
イハヒツ

ヒカリノワコ



けーきいんごそーて 相模ノ左右ノ音人マリル  
 +カレトチカラヲツケイル  
 フリ ○ 同 同 けをふるまうてせ決させまうた  
 +リ ○ 同 同 けをふるまうてせ決させまうた  
 琴ヲムリニス、  
 メヒカスレ也 ○

そく 傍

きのむね下 夫本七 源仲二  
 けをふるまうてせ決させまうた  
 同十二 同

○

そく 樽

宇部保 あや 一石のそく十に調り ○ ○ 同 廿

そく 梨

全果 下  
堀川集  
今物 松浦上人  
 梨のむね下 あや 一石のそく十に調り ○ ○ 同 廿

○ 宇部保 あや 一石のそく十に調り ○ ○ 同 廿

○ 源 あや 一石のそく十に調り ○ ○ 同 廿

梨のむね下 あや 一石のそく十に調り ○ ○ 同 廿  
 #11

一 十ヶキ  
 一 年  
 一 聖人  
 一 エヒ  
 一 消臭  
 一 ノコヒ  
 一 十ヤビ  
 一 物語  
 一 尋  
 一 ミラス  
 一 マリキ  
 一 ウタカヒ



一ノクタシフニ  
一ノナノリ

そーろま終○同 後のうま

いいて 中畧 いろ〜 いろ〜 をして。後撰意又る

損政集 にはさ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜

久安百首 小大進 いろ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜

○今昔廿六四 虚行ヲシテ伺フ所ニテヨ百ヶ

ル○同廿七廿一 人ノ妻ノ嫉妬ノ心深ク虚疑セ

ム○夫ノ為ニカク不吉又下ノ有ル也○同廿

八廿一 此許ノ心ニテハ虚下文モワ為ル○同廿

六ハ 己ハ懐ニコワ有ケレ 神ト云虚名乗ヲメ

中畧 己カ年来神ト云虚名乗ヲメ○

果

万 お〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜 続世福

うぬ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜 いろ〜

○

三言

鏡飯 江次翁

白きぬをぬひ終〜 いろ〜 いろ〜

悪フー  
教クー  
ワカキー

そ〜



てきよめらるるしつゝしつゝの枕冊子

きよめらるるしつゝしつゝの枕冊子

○四季物語

○続板 江次弟

そくむ

盛衰記四舎人カククヒヲ突寺内ノ外へ追出  
ス

そくむ

浦々別  
三十三  
きよめらるるしつゝしつゝの枕冊子

九 そくむらちて二冊しつゝしつゝの枕冊子

下見 しつゝしつゝの枕冊子

コレモ交裳ツキノヨ ○同 和巻

けりしつゝしつゝの枕冊子 ○同 五+

きよめらるるしつゝしつゝの枕冊子 ○同 素屋

そくむらちて二冊しつゝしつゝの枕冊子 ○同

同 ぶらちて二冊しつゝしつゝの枕冊子 ○同

裏記三澄憲更ニワカズメニカヒナ三カヒ

ナ舞翹テ○今昔廿六セ 藁ノ中ニ者ノヨリ

くト鳴テ勤ケルヲ見テ











そん欠

源 幸風

そん欠さほやうにさゆ

カタハノ人ノミル  
セカタハラメト云

こ = 近  
○

そほゆ

後橋 秋中

あけくし *あけくし*

同 西

おりの *おりの*

そほゆ

源 神喜

そいの内お *そいの内お*

そん欠

五十一

○ 方丈記 多耕 一 夏うらむ *方丈記 多耕 一 夏うらむ*

冬をきし *冬をきし*

暁 = 馬ハ疾リ底 = 落入ツル = 我レハ送レテ

ワメキ落行ツル程 =

そん欠



後撰秋上

友別

行成爲相本

天の河原にあはれん

うき世家集

うらせ二書家本

○六帖の家集○契沖云此哥西句家集

世にわく六帖の

草に

水も

新恒集

同異本

を

カノ

そら

枕冊子

そら

大和物語

そら

源花宴

て



そら 空目

拾遺 雜下 伊勢

そらめをそら君にそら〜

風葉 雜二 引く〜中御

月影 入る〜

為老百そ 関西 歸丁

○源 夕 歌 あり〜

言 詞

そら〜 惣

志のそ 祓上 あり〜

あき〜

そら〜

そら 係 あり〜

そら〜

海 子 女 御 集

そら〜

○當 初 十 廿 五 ○大和物語

そら〜

そら〜

大和物語 あり〜

○ あり〜



そと

契之拾遺雜記 元補

その

夫木廿七 正徳百廿七 土御門四大臣

○

そと

夫木六 天仁元年大嘗會 徳島白家

○

そと

袖書

拾玉五

そと

竹取

見

そと



山家集上

山家集上  
万代多  
雨声混波 堀河右大臣

源 幕木

枕冊子

源 幕木

源 幕木

源 幕木

源 幕木

源 幕木

字鏡傳

源 松風

源 松風

源 松風

源 松風

源 松風

千載秋下 公美  
源 松風

夫木拙 正二位崇宗  
源 松風



同蓬 家隆

久安百三十一 小大進

○ 送之えぬ

Handwritten text in cursive style, likely a signature or note.

深付

東鑑四十七 深付三十端卷緒三十疋

Handwritten flourish or signature.

竹取 〇 続紀 宣命 芳毛曾毛 〇 大和物語 百冊

〇 同 百七

〇 廿 日記

〇 〇 〇

虚言

後撰雜二

拾遺雜三

六帖大巻

〇 後拾遺雜四











そのうら

保妻女集

林風子集

類政集

くみおのり

○

そのうら

保妻

そのうら

くみおのり

そのうら

そのうら

くみおのり

そのうら

そのうら

後拾春

右大臣北

そのうら

志度百

そのうら

○

そのうら

右大臣

そのうら

○ 拾遺春



そののしな

新六 しきむら 知家

こまきしきむらもまきしきむら しきむら 神のしな

続分林良村 出処不明

こまきしきむら しきむら 神のしな

色葉和難杖

五代意西

こまきしきむら しきむら 神のしな

散木集

こまきしきむら しきむら 神のしな

林葉集

こまきしきむら しきむら 神のしな

久世百一

こまきしきむら しきむら 神のしな

頑政集

こまきしきむら しきむら 神のしな

○今撰集袖に しきむら 神のしな

丸大后 しきむら

○ しきむら 神のしな

そののしな しきむら

今昔廿八 しきむら 只振口 振ヒテ頭ヲナカシ

テ○

古今誹諧







六言

そくしんせうしん 蘇合とる

樂名きりるしん ぶらとるしん 長明無名上りる

そくしんせうしん 神

未考。廻りて 天地ノ廻りノカキリ  
アルトアル 神トイフ事ナリ

八百五十五の神のまじりたるもの ちんちんちんちん

そくしんせうしん

今俗ニタ、キツケルトイハリハ見サキサ  
スルサマナリ

そくしん

そくしん

そくしん

そくしん

そくしん

そくしんせうしん

そくしんせうしん

今昔廿八 廿ニタリ顔ニ云張りテ口服ヲ下ケ

袖 疏ヲモテ延ヒ上リテ申セハ

そくしんせうしん

古今抄上 在る柿葉  
林の野みよのまじりたるもの ちんちんちんちん

古今抄大正集  
林のまじりたるもの ちんちんちんちん



○余枚

万十五

和我袖波多毛卷等深里互奴礼奴等母故非和  
須礼我比等良受波由可自○

そこのらほう

葉花うの  
つねのまにのしつてはとまのり  
きたるはくもさのらほうまふ○

そこのらほう

細綱手。上綱に綱をまきつるまのり  
久安のそ

あまののらほうのしつてはとまのり  
あまののらほうのしつてはとまのり

万代々同

○

そこのらほう

海装束

是終日記  
あまののらほうのしつてはとまのり

そこのらほう

源 蘭  
あまののらほうのしつてはとまのり  
あまののらほうのしつてはとまのり







源若菜

源若菜

源若菜

源若菜

源若菜

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

十言



